



目指す学校像	新たな時代に向けて、伝統ある進学校としての期待に応えつつ、自主自立の校風を継承・発展させ、リーダーとなる良識ある人材を育成する。
--------	--

重点目標	<p>1 文武両道—学力向上と特別活動等を両立させ、高い目標に果敢にチャレンジする生徒を育成する。</p> <p>2 自己実現—様々な機会を通して視野を広めつつ、高い「志」を実現できる生徒・グローバルに活躍できる生徒を育成する。</p> <p>3 情報発信—積極的に情報を発信して、生徒・保護者・地域等からの期待と信頼に応える学校づくりを推進する。</p>
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名
※資料を送付し、各評議員、評価懇話会各委員より意見等をいただいた。		

学校自己評価					年度評価 (1月25日現在)	
年度目標					年度評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○入試制度の変更があったが、校内における進学指導の結果、進学状況は良い方向に進んでいる。質の高い授業と体系的な指導を一層継続する必要がある。	自立した学習者を育成する。高度な授業内容の構築と指導方法の工夫、改善をする。第一志望の進学者を増やす。	①入学当初から、学習法講座や卒業生講話を実施し、長期休業中の講習を含め授業以外の学習にも目を向けさせる。 ②主体的対話的で深い学びにつながる学習を実践するなど、授業改善に取り組む。 ③進学情報収集と生徒への情報提供をこまめに行う。	①自主ゼミ・進学講習の開講状況及び参加状況の変化 ②「授業に関する生徒アンケート」結果の変化 ③国公立大学、上位難関私立大学の合格者数の変化	①夏の進学講習は、1979名の申し込みがあった。(R2 521 R元 928) ②生徒アンケートにより、肯定的な意見が14ポイント減少した。 ③国公立大学は2年連続116名現役合格、模試の分析は前年度並みを予想する。	A
	○行事、部活動ともに生徒は積極的に活動をしている。さらに地域と連携した活動を増やし、生徒の成長を促す。	教職員一人一人が高い意識を持ち、特別活動に取り組む。	①校内組織の連携を密に、さらに行事等を活性化させる。 ②地域との連携を視野に入れた活動を行う。	①「授業に関する生徒アンケート」結果の変化 ②地域と連携した活動状況の変化	①保護者アンケートにより、82%が肯定的である。 ②保護者アンケートにより、78%が肯定的である。	B
2	○生徒は切磋琢磨しながら充実した学校生活を送っている。新たな時代でリーダーとなる資質の向上を図るとともに高い「志」を実現させる取組をさらに活性化させる必要がある。	グローバルな視点を養う事業等を充実させ、生徒が高い志や目標にチャレンジする気概を育てる。	①本校の国際交流事業への参加を勧め、学校外の力も活用し生徒の意欲を高める。 ②「総合的な探究の時間」、「サイエンス探究事業」において主体的な学びを実践する。	①国際交流事業(エンパワメントプログラム、異文化理解交流等)の参加状況と生徒の参加前後の意識変化 ②参加生徒の事前事後研修への意識・意欲の変化と成果の全校生徒への還元	①エンパワメントプログラムは30名の参加、(R2 36 R元 45)減少している。酸化した生徒は高評価である。 ②生徒研究発表会は、理科にとどまらず文科にも広げた結果、興味、内容、理解は一昨年度に比べ高評価である。	B
	○学習習慣の確立のため、家庭と情報共有しながら協力してきめ細かい進路指導を行う必要がある。	校内指導の体制を連携させて、高い次元での進路希望を実現させる。	①進路指導部を中心に大学入試情報等の共有を密に行い、有機的な対応を行う。 ②各学年の指導内容等の情報を共有するため、外部の説明会等へ積極的に参加する。	①模試分析、各行事での生徒・保護者・参加者によるアンケート結果の変化 ②参加状況と情報の活用状況の変化	①模試は、1、2年各4回、3年は8回実施、終了後分析会を実施している。保護者の学習会は各学年2回実施している。 ②夏の教科指導研修会に15名参加、教員向けの出願指導研修会11月に1回、共通テスト分析会を2回受講した。	A
3	○保護者向けには年次毎からの情報発信が細かく行われている。地域に向けての効率的な広報もさらに進める必要がある。	教育活動の情報発信を行う。生徒保護者・地域社会等からの反応、参加がある。	①入試広報部を中心に学校説明会、進学フェア、土曜学校説明会等の広報を積極的に行い、行事を発展させる。 ②「年次通信」を活用し保護者向けの情報発信をさらに進める。 ③メディア等の活用を行う。 ④ホームページを更新する。	①学校案内やポスター内容の作成時期及びアンケート評価、ホームページの閲覧数の変化 ②土曜公開授業見学者数およびアンケート結果の変化 ③メディアでの掲載数の変化 ④ホームページの更新数の変化	①閲覧数は8ヶ月で56万件である。 ②土曜の学校説明会後にアンケートをとり、高評価を得ている。また、その内容で説明会を改善している。 ③NHKに2回出演、テレビさいたま出演、埼玉新聞掲載回数 ④HP更新回数は200を超えている。	A
	○昨年度のコロナ禍の中で、生徒が安全に生活を送れるような仕組みを構築した。また、施設の改善により快適な学校生活を送れるようになった。安心安全な学校づくりを一層進めていく必要がある。	学習・生活環境を一層整備し向上させる。	①校内の安全点検等通じ、危険箇所や破損施設の改善を迅速に行う。 ②一斉メールの運用やホームページでの緊急連絡など、危機管理体制を構築し緊急時生徒用備蓄品を整備する。	①対応が必要な施設設備の改善状況 ①清掃活動の変化 ②一斉メールの活用状況、緊急時生徒備蓄品の整備状況	①素早い改善を行っている。満足度は72%であるが、平均は前年度より下がっている。 ①保護者から64%の評価を得ている。 ②一斉メールの満足度、79%である。緊急生徒備品(乾パン、水)は28%の認知である。	A

学校関係者評価	
実施日	令和4年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>生徒に対して自主的学習態度を身につけさせるべく配慮している学校側の積極的姿勢が窺えて頼もしい。</p> <p>夏の進学補習に申込者が大幅に増加したのは、学校の指導への信頼が増していることと評価できます。</p> <p>こうした環境の下、子供たちはのびのびと文武両道、高い目標に向かって活動できている様子がわかる。</p> <p>進学講習に関しては生徒の間でも話題に上がっていたことは感じたので、関心が高まっているのだと思う。</p>	
<p>グローバルな視点から自己実現の道を探るのは望ましいことではあるが、それを支援する姿勢をしっかりと築いてほしい。</p> <p>今後は、ステップ2までの取組を充実し、国内の大学との連携や海外の大学とのオンラインでの交流も検討したらいかがかと思えます。</p> <p>エンパワメントプログラムは、連絡が伝わらず、参加したい人まで、しっかり届いていない可能性がある。</p> <p>模試の回数は適切で分析した結果などから川高の課題も毎回先生方からお話しされるので、学習に役立っていると思う。</p> <p>OB懇談会や、進路学習会等のおかげで、この先の進路について、少し見通しを持つことができたので、とてもよかったですと思えます。</p>	
<p>外部に向けての情報発信に関しては、順調に展開しているようで評価できる。</p> <p>保護者アンケートから、現在は学校のHPで、子供たちの日々の生活、学校からの配付物やお知らせ、PT会、後援会活動についてなど、日々の情報が発信されていることに負担不安が大きいと懸念する。</p> <p>川高のホームページにある「今日の川高」はかなり知名度が高いなど感じる。度々、生徒の間でも話題に上るし、自分もよく見る。</p> <p>緊急備蓄品がどこにあるのかわからない。</p>	